Tango Querido
アストル・ピアソラ生誕100周年記念「ブエノスアイレスのマリア」
企画書

日時：2021年12月22日〜23日
　　12月22日（水）18:30開演（18:00 開場）
　　12月23日（木）15:00開演（14:30 開場）
会場：座・高円寺2

バイオリニスト柴田奈穂率いる「Tango Querido」主催公演。
タンゴの革命児アストル・ピアソラが、詩人オラシオ・フェレールと作り上げた最高傑作「ブエノスアイレスのマリア」をこれまで日本であまり演奏されてこなかったオリジナルフル編成で実施。このストーリー仕立ての組曲を、映像やダンサーを交えた演出つきで行うのはアジアで初めてとなる。この公演のため出演者、スタッフともに、日本における最高レベルの人材が集結した。
今年NHKでも企画番組が大々的に取り上げられ、また東京芸術大学におけるピアソラ企画公演も行われるなど、各方面で盛り上がりを見せているピアソラの生誕100周年のラストを飾るにふさわしい演目に仕立て、音楽ファンのさらなる注目を狙う。

文化庁がコロナ禍における支援として打ち出した「Arts For The Future」採択企画となり、新規の任意団体としては満額の600万円の支援を受けて行うことが決定。

【ブエノスアイレスのマリアについて】
タンゴの革命児と呼ばれるアストル・ピアソラが、詩人のオラシオ・フェレールと組み、便宜上「オペリータ（小さなオペラの意）」と呼んだこの組曲は1968年初演。インスト曲3曲、歌と朗読入り13曲からなる。同年5月8日から8月末までブエノスアイレスの劇場で上演された。公演自体は高く評価されたが、商業的には厳しいものであったとされる。しかし、この演目がピアソラのそれまでの集大成であり、現在でもこの組曲の中から取り出して演奏されることも多い「フーガと神秘」などを含んでいたことからも分かるように、ピアソラの

人生を語る上でも非常に重要な作品であることは間違いない。
マリアはタンゴそのものを擬人化した存在としてして描かれており、全編に渡り、場末感と悲しみが空気を覆うが、ドゥエンデのナンバーなどが救いのように存在する泣きのピアソライズムが光る。また、「受胎告知のミロンガ」というナンバーからも分かるように、キリスト教のマリアをかけて彼女は存在している。クリスマスシーズンにまさしく合う演目なので、キャッチコピーではそこも取り入れたいところである。非常に抽象的なストーリーであるが、その人気はブエノスアイレスはじめ世界で衰えていない。
本公演では、ストーリーに沿ったダンサーたちの動きやソリストたちの動きによる演出で演劇的要素も加える（日本初）。また、舞台後方へプロジェクターからの字幕を投影することにより、曲のイメージがより観客へ伝わるようにし、映像による資格的な効果・理解を作る。

● あらすじ（斎藤充正氏著「アストル・ピアソラ闘うタンゴ」より）

（一部）
荘厳なテーマに乗せてドゥエンデがマリアの声を呼び寄せる。マリアはギターの爪弾きにとって登場し、吟遊詩人とドゥエンデがマリアの生い立ちを物語る。マリアは 1 週間で成人を迎え、夢見る雀のポルテーニョ（ブエノスアイレスっ子）が彼女の人生を語る。マリアは生まれた街を去るが、逃げ込んだ夜の世界でバンドネオンに堕落させられる。ドゥエンデはバンドネオンと決闘するが、マリアは下水溝の地下に落ちて死んでしまう。

（二部）
マリアの葬儀から始まる。マリアの肉体は埋葬されるが、その影はブエノスアイレスをさまよい続け、下町の街路樹や煙突に手紙を書いたかと思えば、精神分析医のサーカスでありもしない想い出を語らせられる。マリアに惚れていたドゥエンデはマリアの影を探し求め、マリアの影はやがてドゥエンデの子を身籠もる。そして日曜日の朝、マリアの影が生んだ子供は、もう 1 人のマリアだった。

【演出の狙い】
舞台には、11 人の演奏者たちが高低差をつけた台の上にいる。それらが、ある時は建物のように、ある時は影のように見える。奏者たちそのものが街のような舞台セットに見えてくるような狙いである。
舞台後方には黒い紗幕がつられており、プロジェクターからシーンに合ったイメージ映像を投影する。しかしながら、この作品の世界観を損なわないよう芸術的・抽象的に情景描写を行うものとする。
また、本公演は原語のスペイン語での上演となるが、日本でも最高レベルの南米音楽研究家であり翻訳家である西村秀人氏による字幕を投影し、スペイン語の歌詞を観客が理解できるようにする。
ハイブリッド（有観客配信）コンサートの形をとることにより、より遠方への聴衆にアピールするものとする。（配信時の字幕については配信スタッフと打ち合わせ検討が必要。）

【支出、収入】
文化庁による Arts of the future の助成金と配信収入を得て黒字を目指す。

【出演】
歌手（マリア）：小島りち子
歌手（男声）：KaZZma
ドゥエンデ：西村秀人
バンドネオン：早川純
バイオリン：柴田奈穂
バイオリン：会田桃子
ビオラ：田中景子
チェロ：橋本歩
フルート・ピッコロ：赤木りえ
ギター（アコースティック＆エレキ）：田中庸介
ピアノ：宮沢由美
コントラバス：田辺和弘
ビブラフォン・シロフォン：相川瞳

パーカッション：海沼正利
ダンス・群読：エフェクトタンゴ
鍬本　知津子
ゴンサロ・クエッショ
ダニエル・ウルキーシャ
レアンドロ・ハエダー
坂田美帆子

【スタッフ】
作曲：アストル・ピアソラ
作詞：オラシオ・フェレール
プロデュース：柴田奈穂
演出：飯塚励生
演出助手：KaZZma
音楽監督：柴田奈穂
翻訳：西村秀人
音響：小俣佳久
照明：ライティングオフィス矢口
舞台：アートクリエーション
映像：菅原重成
配信：クラッキスイレブン
宣伝美術：山田真介
制作：柴田奈穂（制作補佐：河原井みつる、大野由美子）

後援：アルゼンチン共和国大使館

【目指しているスケジュール】

◆ これまでの経緯

5 月	企画立ち上げ、Asts For The Future（以下 AFF）に企画提出。
7 月	AFF 採択・助成金交付決定。
8 月	スタッフ顔合わせ、打ち合わせ開始。劇場下見。 ブエノスアイレスピアソラ財団・作品の譜面版権元のワーナーと連絡を取り合い、譜面を手配。
9 月	譜面入手。 出演者全て確定。 演出プラン打ち合わせ開始。 譜面チェック、手直し開始。 宣伝用美術チラシ、HP など作成開始→告知内容確定。 ９月末情報解禁。 座・高円寺 2 に催し物計画書提出。
10 月	各奏者にパート譜配布。ソリスト、バンドネオン、ファーストバイオリン、ギター、ピアノ、コントラバスにてリハーサル開始。 翻訳開始。 演出家による、演劇的なリハーサルを音楽のリハーサルと並行して実施。

●これからのスケジュール

11 月後半	配信打ち合わせ・音響打ち合わせ 会場（座・高円寺 2）とのスタッフ打ち合わせ。
12 月	照明プラン、演出プランの確定。 フル編成での音楽リハーサルを実施。（２回） 小屋入り前にダンサーたちも交えた全員のリハーサル実施。 関係者全員の抗原検査実施。
12 月 21 日	小屋入り、調律、舞台セッティング。 午後から奏者入り、舞台稽古。
12 月 22 日	ゲネプロ、微調整、修正のち夜本番
12 月 23 日	微調整、修正後、昼本番